

ドロヤナギ (ドロノキ)

Populus maximowiczii

ヤナギ科



ドロヤナギ

名前の由来

「ドロ (泥)」は、材木として用いると柔らかくて役に立たない点が泥のようであるから。別名ドロノキ (泥の木)。「ヤナギ」は①古く中国で矢をつくったことから、ヤノキの転。②成長しやすいため、イヤナガ (彌長) の略。③梁をつくったことから、ヤナ木。④柔荑木 (やわなぎ) の意。などといわれている。さらに漢字の「柳」はシダレヤナギなどを指し、他のヤナギは「楊」にあたりともいう。別名、ドロノキ。漢字名：泥柳

形態的特徴

樹高30m、太さは1m以上になる。葉は広楕円形で長さ6~12cm、基部はやや心形、浅い鋸歯縁、やや革質、互生。雌雄異株。花は雄花序は下垂し6~9cm、暗赤色、雌花序は3~5cm、黄緑色、4~5月開花。果実は果序の長さ10cm以上、6月頃成熟、黄緑色。樹皮は、若木では帯緑青白色をしてなめらかである。成長するにつれ暗灰色になり、縦に裂け目を生じる。一年生枝でも太く、あまり細かく分枝しない。冬芽は大きく長さ15~20mmあり先がとがる。

類似種と見分け方：ヤマナラシ、ポプラとは葉の形も違うが、ドロヤナギは葉が厚くて表面にしわがあること、裏が白っぽいことなどが特徴となる。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葦原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ



ドロヤナギの樹形。幹が1本立ちする



(上)ドロヤナギの葉
(下)ドロヤナギの樹皮。白っぽい



(上)ドロヤナギの雄花(左)と雌花(右)
(中)ドロヤナギの開いた実
(下)ドロヤナギの冬芽。15~20mm

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期	■											
結実期			■									

生育環境・分布

日当たりのよいやや湿った場所や河岸に生える。

分布：国外分布は、樺太、朝鮮、中国、シベリアなど。国

内分布は、北海道、本州中部以北。北海道内分布は全道。

十勝地方では、湿地や河岸でふつうに見られる。

繁殖生態・寿命

4～5月開花。蜜腺を持つ虫媒花。果実は果序の長さ約14cm、6月頃成熟、黄緑色。ヤナギ類の種子には無数の長毛がつき、風散布される。その距離は数100mから数10km

にまで達するという。寿命は100～200年。樹齢144年の標本がある（新王子林木育種場 標本館）

他生物との関わり

キベリタテハ、オオイチモンジ、コムラサキの幼虫の食樹となる。

《ヤナギ一般》花の少ない早春に開花するので、この時期の昆虫にとって貴重な吸蜜源となる。また、ヤナギ類は新

条（その年に出た枝）が伸びるにつれ新しい大きめの葉を先に付けるが、早くから出た葉は順番に落ちていく。これによって長期に渡り水生昆虫に餌を供給でき、魚を養うことができる。

植栽関係

枝挿し増殖、挿し木（埋枝）をしやすい（他のヤナギ類に比べると成功率が落ちるとい報告例もある）。一般的にヤナギの挿し木には、直径1～3cm（枝齢2～5年生）で

まっすぐなものが良く、長さ30cmが基準となる。無理矢理打ち込まず、案内棒などで穴を開けて、斜めに埋めることが望ましい。上下間違わないようにすることも大切である。

興味深い話

■公園樹、器具材、マッチの軸、下駄材、パルプ材などに用いられる。

■十勝地方のアイヌ語名では、「クルンニ」という。

■アイヌ語「クルンニ」は「魔・住む・木」の意、他の地方での「ヤイニ」は「ただの木」の意と良い名とはいえない。ユカラ（アイヌの詩曲）には「国造りの神が最初にドロノキを地上に生やした。しかし人々が木をこすり合わせて火をおこそうとしても煙ばかり。それどころか痲瘡神、化け物、怪鳥が生まれてきた」というものもあるという。柱にしてもすぐ腐るといことで、良い木とは見なされていないようだ。

■評判の悪い木ではあったが、明治初め詐欺の罪で函館懲役場に服役していた男が、マッチの研究を始め、ドロヤナギが適材であることを発見し、製品化に結びつけた。この男玉林治右衛門はこの功績によって無罪放免、マッチ製作

所の主任となったという。

■種子の白毛は綿の代用に布団につめることがあるという。

■〈ヤナギ一般について〉多くのヤナギ類は挿し木に向いていて、「さし木にも風はそよぎて柳かな」（里童）という俳句があるほどである。『万葉集名物考』（著者、刊行年代不明『日本文学古註釈大成』に収録）には「柳は枝を折て地上にさしおけば生ひやすく根植はかへりて育たぬもの也」とあって、挿し木の場合は根付きやすいが、移植は育ちにくいことを示している。しかし一般的にヤナギ類は、移植には強いと言われ、相当大きな木でも発葉前の適期に移動し、枝をかなり剪定すると良く活着するという。

■ヤナギは全体として早熟性であり、発芽後10年ほどで種子散布をおこなう。また風散布によって種子が遠距離まで分散するため、その生育域を短期間に広げる可能性を持ち、「速足の旅人（クイックトラベラー）」と呼ばれるという。

配慮事項

枝挿し増殖、挿し木（埋枝）をしやすい（他のヤナギ類に

比べると成功率が落ちるとい報告例もある）。

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978
「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎（社）北海道治山協会 2001
「森林で遊ぶシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試

験場 監修 北海道林業普及協会 1996
「改訂増補 牧野 新日本植物圖鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「生育環境別 日本野性植物館」奥田重俊 編著 小学館 1997
「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「平成12年度十勝圏道立広域公園自然環境調査報告書」アークコーポレーション(株) 北海道帯広土木現業所 2001
「アイヌ植物史」福岡イト子 草風館 1995
「天然林施業Q&A」石塚森吉ら 北方林業会編 1988
「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類